

若い人たちに語り継ぎたい。そして、次の世代に残してほしい貴重な話しをお届けします。

お年寄りたちの貴重な体験談〈第二回〉

あすへひとこと

子供の頃の思い出(夏)

これは昭和の初めの頃のことです。夏になると私たちは用水堀で水遊びをしたり、魚とりをするのが何よりの楽しい遊びでした。この用水堀は私の住んでいる狸塚の東端を、北から南へ流れていて、多々良沼が水源です。

昔、大谷休泊(一五二〜一五七八年)が狸塚、成島、赤堀を始め各村々の用水として造ったと言われ、正しくは下休泊堀と呼ばれていました。多々良沼からの引き水を調整するため樋門が設けられていて、上の樋を一番樋、次を二番樋というように呼びましたが、子供の頃はこの素堀りの用水そのものを大樋と言っていました。

小学校の下級生のころは小泉県道(現在の国道三五四号)に架けられた石橋の下で遊んでいました。ここは箱樋になっていて板敷で透きとおったきれいな水が流れ、水面にはミズスマシやアメンボが



たくさんいました。水に足を入れると、時々足もとを魚がスーッと、スーッと通って行くのが見ええました。友達と手ぬぐいの四隅を持って水中の板の上に敷いて、しばらくすると、メダカが群をなしてやって来ました。一、二、三、と気合いをかけて引き揚げると、必ず数匹ビチビチと跳ねて捕らえられました。

女の子も着物の裾をまくって、ここで遊んでいたように記憶しています。水の流れの少ない時は底板に両手をついて首だけ出してお手つき泳ぎで水泳の練習をしました。みんなランニングシャツと猿又(パンツ)を蛙道に脱ぎすてて丸裸でした。当時は水泳などとは言わないで水遊びと言ったものです。

この橋から下流には年によって所々四角の白布の四隅に麻で結んで青竹に吊るされた流漕頂がたてられていて怖くて近寄れませんでした。なんでも、お産で亡くなった女の人の霊を弔うためのものだったそうです。だんだん上級生になり

ますと二番樋から一番樋の方へ上って行きました。当時堀には藻がいつぱい生えて流れにゆれていました。またマコモ(葦)の生えている所もありました。五年生ぐらいになると一番樋で浴びるようになるのです。ここは元、大水で土手や側溝が崩れ、堀というより、ちよつとした小沼のようになっていました。子供心には一番幅広い所は二十メートルほどもあったように大きく思われました。

兩岸の土止め杭は水辺から二、三メートルも中になつて朽ちかけていましたが、私たちははるるぬるするこの杭につかまって遊んでいたのです。ここを西端から東端まで往復できると一人前の子供でした。これにはなかなか勇氣と実力がいました。真ん中辺りまで泳いで行くと、

水が冷たく流れもあり、藻が足からむので薄気味が悪く、特に東端にはマコモがたくさん生えていましたから、この間を泳ぎぬくのが大変でした。途中でカッパにでも引き込まれたら、と思うと真剣でした。

私の泳法は犬かきです。先輩が拔手や大うち(両手で水を胸の下にかい込み、足を大きくばたかせ、ドーン・ドーンと胸で波を立てて泳ぐ)で泳いでいるのがうらやましく思われました。上級生の近くで泳いでいると、波の勢いで水をか

ぶり、ガブ、ガブとあの生温い、なんとも言えない藻の臭いのする水を飲ませられてしまったものです。

大人は、盆近くになると「地獄の釜の蓋が開いたから水浴びはするな。カッパに引き込まれる」「仏様は生臭いものが嫌だから魚とりはするな」と、よく注意しましたが、子供たちは、こっそり約束し合つて、ガラスうけを持って泳ぎに行つたものです。

そうした子供たちを大人たちは見て見ぬふりをしていたようです。一番恐ろしかったのはお巡りさんでした。「巡査が来たぞ!」と誰かが叫ぶと子供たちはクモの子を散らすように裸で稲の中に逃げかくれたものです。

今では下休泊堀は一級河川逆川と称され、用水路は立派なコンクリート壁に改修されて、子供の遊んでいる姿も見られず昔の面影はありません。ここを通るたびに、子供の頃メダカすくいや水遊びをしたあの頃のことを懐しくほうふつします。あれからもう半世紀以上もたつてしまつたのです。

高齢者の語り第一集「あすへひとこと」思い出をたどつて」より「子供の頃の思い出(夏)」横山 榮一さん(本郷江原・二九区)

ひとりごと From editors

▼入職して広報を担当することになって1年が経ちました。本当にあっという間に過ぎていったなあと感じています。昨年は日々の仕事をこなすことで精一杯で、多くの人に迷惑をかけてしまいました。最近は1年経て流れがつかめて、以前よりスムーズに仕事を進めることができるようになった気がします。▼この間夜に自宅に帰ってくると、鳥の鳴き声のようなものが聞こえて、気になって周りを探してみると、鼻筋が白い犬みたいな動物が出てきたんです。その動物はすぐに逃げたのですが、どうやらハクビシンだったようです。邑楽町にいるなんてビックリしました。Σ(□□)(清)



Photo 広報担当者



深い緑の森で
鮮やかに咲く
(おうら創造の森)



広報おうら

ORA TOWN Public Relations

平成23年7月号 No.538

毎月1日発行

編集・発行 邑楽町役場企画課

〒370-0692 (住所記入不要)

☎ 0276-88-5511 (代表)

☎ 0276-47-5007 (企画課直通)

☎ 0276-89-0136

URL <http://www.town.ora.gunma.jp>

E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト

2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。

携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>

